

G)

医療関連

G)-1 石綿関連疾患

364

Q: 1970年から40数年、造船業で電気溶接をしていました。じん肺の管理3(イ)と言われ年数回定期的にレントゲン写真の撮影を受けていたのですが、更に最近肺に腫瘍があるとと言われて、1ヶ月に1回はCTを受けています。肺ガンなのか？心配なのですが、どうしたら良いのでしょうか？

A: じん肺で経過観察中だった方が、毎月レントゲン写真を撮影するように言われて心配されているとの事です。注意深く診断する必要があるという事ですから、今後追加の検査もあるのかもしれませんが。主治医の先生とよく相談し、お困りの時は、いつでもご相談ください。



365

Q: 40年くらい前、20～40代の頃、大工をしていてアスベスト建材を長年扱ってきました。鉄筋造りやアパートの仕事をしてきました。一時は工務店を経営していましたが、長年手間受けて一人親方でした。最近咳も出るし、動く息が苦しいのですが、どうしたら良いのでしょうか？

A: 石綿肺やじん肺という病気の可能性も疑われます。一度お近くで、アスベストやじん肺に詳しい病院に受診してみましょう。



366

Q: 自宅の車庫に岩綿(ロックウール)の吹き付けがあります。(S60年頃の建築です。)岩綿は中皮腫を起こさないのでしょうか?

A: 岩綿及びガラス繊維は中皮腫を起こしません。まず安心ではないかと思います。



367

Q: アスベストを飲み込んだ場合、健康に影響がでるのでしょうか?

A: アスベストは、吸入し肺に沈着すると後年様々な健康障害を起こす事が知られています。飲み込んで食道から胃に達する消化器の経路では、明らかな健康障害は起こさないようです。今回飲みこまれたアスベストが肺に吸い込まれなければ、とりあえず心配ないと考えて良い様に思います。



368

Q: 2週間前に鉄骨のほりに吹き付けられたアスベストを大量に吸入してから、咳、胸部の締め付け感があります。レントゲンを撮り、問題ないと言われましたが、不安です。20代から5年間の時期に建設関係の仕事をしていました。その後はそうした関連の仕事はなく、今回10年ぶりにそうした現場に行きました。潜伏期間のことはインターネットでも読みましたが、急性で影響というのがあるのではないのでしょうか? アドバイスください。

A: アスベストと共に、セメントやその他の様々な粉じんを吸入している訳ですから、量が多いと急性の気管支炎症状を起こすことがありますし、皮膚や鼻等にアレルギー様の症状が起きます。しかし一定時期に直り、その後は石綿関連疾患の発症までは、病気の心配は不要です。



369

Q: 石綿肺は、どのような人に起きる病気なのでしょうか？

A: 職業性石綿暴露の人に主におきる、良性ですが進行性の繊維増殖性変化を主体とした、疾患です。吹き付け石綿等の高濃度曝露では1年、造船・建築等の中濃度曝露では5～10年以上の人に生じるとされており、家族曝露や環境曝露での報告事例は極めて稀でした。日本では工場周囲に稀な環境曝露の石綿肺事例が報告され始めていますが、人口密度が高く工場敷地内というべき距離と場所に人家があるためだと思います。

 Consensus Report. Asbestos, Asbestosis, and Cancer : the Helsinki Criteria for diagnosis and attribution : Scand J Work Environ Health 1997; 23: p311-316



370

Q: 胸膜肥厚斑は、どのような人に起きる病気なのでしょうか？

A: 職業性曝露の人でも低濃度で曝露の人でも、短期間の曝露でもおきる良性の胸膜の疾患です。潜伏期が他の疾患と比べて短いので、胸膜肥厚斑がおきた後に、肺ガンや中皮腫が発症する順番となる良性病変で、ゼオライト等石綿以外でも生じることがありますが日本では概ね石綿曝露が原因のため、石綿曝露の指標として注意すべき疾患です。



371

Q: 中皮腫は、どのような人に起きる病気なのでしょうか？

A: 職業性曝露の人でも、低濃度で曝露の人でも、短期間の曝露でもおきる悪性の胸膜の疾患です。家族曝露でも、工場周囲の環境曝露でも、吹き付け石綿のある建物からの曝露でも、一般の大気中の石綿からも生じると考えられます。潜伏期は平均40年前後(10～70数年)で、日本では概ね石綿曝露が原因のため、石綿曝露の指標として注意すべき疾患です。



372

Q: 石綿肺ガンは、どのような人に起きる病気なのでしょうか？

A: 職業性曝露の比較的高濃度群に、平均して潜伏期 40 年前後で起こる疾患と考えられています。御存知の通り、喫煙とは足し算ではなく掛け算の相乗作用があるため、喫煙で職業性石綿曝露者の肺ガンは大変なりやすいとされます。ですから禁煙は重要な肺ガン予防となります。石綿は閾値のない発ガン物質と考えると、家族や工場周囲の環境肺ガンも、「純粋な大気」による石綿肺ガンも当然ありえると思いますが、現在まで実証された論文は少ないのが現状です。(2006 年時点の回答です)

 Consensus Report. Asbestos, Asbestosis, and Cancer : the Helsinki Criteria for diagnosis and attribution : Scand J Work Environ Health 1997; 23: p311-316



373

Q: 良性石綿胸水とは、どのような人に起きる病気なのでしょうか？

A: 低濃度曝露から高濃度曝露の人におき、潜伏期間は 1~58 年とされており曝露開始から一生とされています。

 三浦博太郎, アスベスト関連の胸膜疾患, 東京: 篠原出版社; 2007: 104-111



374

Q: 子供の時に石綿を吸入した人と、20 代で石綿を吸入した人では、子供の方が成長途中ですから、肺ガンや中皮腫になりやすいと思いますが、どの位なりやすいのでしょうか？

A: 乳児や幼児は特に石綿に感受性が高い証拠はないようで、同じ量の曝露を 0 歳でうけた人と 10 歳で受けた人と 40 年後の発症に差は見られないとされています。しかし曝露を受けてからの平均余命が異なりますから、年齢が低い時期に曝露を受けた方が、より発症しやすいのは確かです。参考に OSHA モデルを示します。



375

Q: 人以外の動物でも中皮腫はおきているのでしょうか？ 石綿工場周囲のペットは中皮腫で死ぬのか心配です。

A: 中皮は、ヒトだけでなく、犬や猫、牛や豚、ラット、マウス、ハムスターやイルカ等の様々な種類の哺乳類にもある細胞です。動物実験で中皮腫がおきている動物をあげてみると、ラットやマウスやハムスターがあり、イルカの中皮腫発症も知られています。石綿(アスベスト)工場周囲の犬や猫はどうだったのか、今後の調査報告が気になるところです。



376

Q: 吸入したアスベストは肺に沈着するとされていますが、その後アスベストは体のどこに移動するのでしょうか？

A: 吸入したアスベストは、肺の呼吸細気管支周囲に沈着します。動物実験レベルでは、吸入した粉じんの99%は、痰や気管支の繊毛の作用で排出され、1%が3ヵ月後も肺に残存するとされています。アスベストも同様に吸入量の多くは排出され、一部が肺に沈着すると予想されています。その後粉じんやアスベストは、リンパ流の流れにより肺門リンパ節を通り鎖骨下静脈から全身へ分布するとされています。ヒトの解剖例では、石綿繊維は肺に圧倒的に多数検出されますが、心臓や腎臓や肝臓や筋肉等血流を介して分布するしかない器官から検出されてくるのが特徴です。なお呼吸細気管支から臓側胸膜を経て胸水に達し、壁側胸膜のリンパ流に流れる経路も知られています。



377

Q: 現在の研究状況についてお伺いいたします。いわゆる、職業上で、アスベストに触れた方全体のうち、アスベストによるガンの発症が確認されたのは何%くらいなのでしょう？ 知りたいのは、「少しでも吸ったら非常に高確率でほとんどの人に発症するのか」「一部のみに発症するのか」ということです。現在、情報が非常に少なく、不安をぬぐえない状況です。

A: この間の報道の足りない点だと思います。濃度と吸入期間で異なりますが、高濃度で平均 20 年間職業性曝露のあった日本の造船所の疫学調査で、石綿関連死亡は 10% 程度です。90% 前後は肺に変化は生じても石綿の病気で永眠はされていません。海外の高濃度曝露の疫学調査でも石綿関連疾患による死亡者は 1/2 以下です。吸入者すべてが発病するわけではありません。



378

Q: アスベストは吸入する以外に皮膚で接触していて、ガンが起きることはないのでしょうか？ 20 代から石綿建材を大分さわったので心配です。

A: 石綿工場や石綿鉱山での永年の多数の疫学調査の結果でも、皮膚ガンの発症の増加は認めませんでした。アスベストは皮膚にガンを作らないとされていますので、御安心ください。

 森永謙二編, 改訂新版 職業性石綿ばく露と石綿関連疾患—基礎知識と労災補償一, 東京: 三信図書; 2005: 1-370



379

Q: 脳腫瘍になりましたが、会社で石綿製品の製造をしていました。部屋は一緒にすしマस्कなどはみんなしていませんでした。石綿と脳腫瘍と関係は有るのでしょうか？

A: 脳腫瘍と石綿曝露の関係はないと考えられております。

 森永謙二編, 改訂新版 職業性石綿ばく露と石綿関連疾患—基礎知識と労災補償一, 東京: 三信図書; 2005: 1-370



380

Q: 「中皮」とは何なのでしょう？ その他の事を少し詳しくおしえて下さい。

A: 受精した細胞が1細胞から分裂を始めていく発生の過程で、上皮、中皮、内皮が分化してきます。外の細胞が中に入り込んで、消化器や呼吸器や泌尿器を形成していきますが、上皮細胞の系統です。一方中では、筋肉や血液や血管や神経となる内皮細胞の系統が見られてきます。その間で、肺や心臓や消化器や精巣を取り囲むのが、中皮細胞の系統です。

 亀井敏明編著、アスベストと中皮腫、東京：韓原出版社；2007：1-299



381

Q: アスベストが起こすガンとして、肺ガンと中皮腫以外がないようですが、その他のガンがおきない理由を教えてください。

A: 石綿は、中皮に特異的な作用をもたらす物質である可能性が高いと思います。沈着量の多い、肺では上皮に肺ガンをおこしていますが…。



382

Q: 測定業務に従事し煤煙測定(煙突に設置されている測定孔より煙突内部の煤煙を測定する業務)を実施したいです。ピト管を挿入入口を石綿を詰めて固定する方法をとっており、作業中に煤煙及び石綿等を吸い込んでおります。同僚の中には石綿本体を正圧の際、飲み込んでしまった方もいるのですが、飲み込んだ場合食道ガンや胃ガンになる恐れ等は無いのでしょうか？ 中皮腫などが発症すれば、石綿との関連性により労災保険の適用が可能と思われませんが、もし食道ガンなどでは関連性を証明することはできるのでしょうか？

A: アスベストを経口から摂取したことによる発ガンや他の疾病は、今のところ明確な報告はありません。腹膜、心膜、精巣鞘膜の中皮腫も呼吸によって体内に入ったアスベストが血管かリンパを経由して標的臓器に到達すると考えられています。他に気になったことは、①アスベストリボンや布は未だ禁止されていませんので、流通している可能性があります。アスベスト含有のない代替品を使っているかどうか、チェックした方が良いと思われます。②煙突には内部に断熱材としてアスベストを使っていることがありますので、防じんマスク等の防護は今後必要と思われます。(2005年時点の回答)



383

Q: アスベストによる関連疾患として中皮腫・じん肺は認定されているということですが、アスベストにより食道に異常が出るということは無いのでしょうか？左官の者が食道ガンになりました。無関係であればよいのですが、もしも思いご相談させて頂きました。

A: 現在までの疫学報告では、食道ガンとアスベストの関係はないようです。大腸ガンについてアスベストとの関係を示唆する疫学調査も以前ありましたが、腹膜中皮腫を大腸ガンと誤診していた場合もあり、現在アスベストと大腸ガンの関係はないと考えられています。^s



384

Q: 昭和30年代から50年代まで建築現場で仕事をしていました。肺活量が少なくすぐ息切れがします。肺活量も低下しています。健康診断で左の胸膜が部分的に肥厚しています。今までにアスベストを取り扱った経験がありませんかと言われ、胸部のCT撮影をしました。結果左肺の一部に繊維状になっている部分がありますと言われました。やはりアスベストに関係あるのでしょうか。

A: じん肺・石綿肺が疑われるようです。石綿関連疾患に詳しい医療機関への定期的受診が必要だと思います。



385

Q: 「腹膜中皮腫」は呼吸・空気が通らないのになぜここに来るのですか。石綿による「ガン」はどうして中皮・肺の外部周辺に来るのでしょうか。肺の中には出来ないのでしょうか。それが「石綿肺」と呼ばれる部分なのでしょうか。

A: ①肺に吸い込まれたアスベスト繊維は、肺のリンパ腺を經由してごく一部が、血液を介して全身に廻ります。ですから、腎臓からも、心臓の筋肉からも、腎臓からもアスベスト繊維が検出されます。当然血液を介して、胸膜中皮や腹膜中皮にも検出されるのです。②消

化管の飲み込まれたアスベスト繊維が、直接吸収されて腹膜に達する説もあります。③石綿による「ガン」は、肺の中に石綿肺ガンとして起きています。労災でも新規石綿法でも対象疾患です。



386

Q: 35年前に石綿を使用する実験をしていました。3週間に1度約1年位の期間です。3年前から息切れがし咳があり急速に悪くなってきて散歩も出来ず毎日家の中で過ごしています。レントゲンやCTで調べてもらった結果は肺の周りに厚い膜が出来ていて肺が十分に酸素を取り入れることが出来ない状態になっている由、現在酸素を鼻から補給しながら生活しています。

A: 悪性中皮腫ではなく、お話では「びまん性胸膜肥厚」等の疾患も疑われます。まず病院でよく病名を伺った上で、再度ご相談下さい。



387

Q: 石綿規則に基づく石綿肺の特殊健康診断(初受診)を受ければ、中皮腫に罹患しているかの判定が可能なのでしょうか。

A: 中皮腫は石綿吸入者に稀におきる病気です。たまたま健診時に発症していればわかりますが、健診後2ヶ月で発症すれば、当然わかりません。



388

Q: 最近の健康診断で肺の肥厚が見つかりました。理科の授業では、石綿金網の非燃性を紹介されて、沢山理科の実験で使いました。雲母は非燃性の物質として理解できますが、石綿は今になって思うとチクチクして嫌なモノでした。発病するには十分な期間であると思いますが、どうでしょうか？ 現在30代です。

A: 「肺の肥厚」は、石綿以外の原因による胸膜炎の後遺症の「胸膜肥厚」ではないかと思えます。石綿による胸膜の変化は、病変が斑(まだら)状になる、「胸膜肥厚斑」です。名前は近いのですが、「胸膜肥厚」と「胸膜肥厚斑」は、全く違う病気です。ご確認頂ければ幸いです。気になる場合は、レントゲンご持参で以下の医療機関に受診して下さい。



389

Q: この度父が健康診断で再検査を受けた際、肺に写る影がアスベストによるものかもしれないが、はっきり分からないので3ヶ月後にもう一度検査してみましょと医師から言われたそうです。何年か前から肺に白いものが写ると言われつつその度に何でもないと言うことで、過ごして来たようです。若い時にアスベストにまみれて仕事をしていたそうです。私が問題なのは、本当にその病気なのか、他の病気なのか、そして今から3ヶ月後に再検査を受けて、その時では手遅れになっているのではないかと言うことです。

A: ご質問のお父さんの場合は、中皮の下にできる良性の胸膜肥厚斑かと思えます。中皮腫を疑い、すぐ検査入院させない医師はいないからです。ご心配ならすぐ予約をとって、国立A病院の主治医の先生に、お父様と一緒に受診され、十分説明を受ける事をお勧めします。

 胸膜肥厚斑 <http://www.himawari-clinic.jp/kb/kyoumakuhikouhan.html>



390

Q: アスベストを職場で永年同じ様に吸入していたのに、石綿肺が発症し酸素を吸うヒトがいる一方で、レントゲン写真でも顕微鏡で肺の標本を見ても、何も変化がない人もいると聞きます。どうしてそういう個人差がうまれるのでしょうか？

A: 動物実験で石綿を吸入した場合でも、肺中に残存している石綿繊維は、100倍程度違うとされています。同じ石綿を同じ期間吸入していても、動物では100倍の残存繊維の違いがあるという事です。その違いは、個体の鼻や気管等の構造の違い、繊毛等の排出力の違い、免疫をつかさどる細胞の差もあると推定されます。人の場合でも同様に、個人での粉じん・石綿の排出の個人差があると推定されています。更に、石綿が作用する肺内の線維形成能や、中皮腫や肺ガンの感受性の個人差もありますので、同じ石綿を吸入しても1000倍近い

個人差がうまれる可能性があるのではと、思われます。



391

Q: 最近、中皮腫の早期診断ができる血液の話の時々聞きます。どのくらい確かなのでしょうか？

A: 胸膜中皮腫は、症状がでたり胸水の貯留や胸部レントゲン写真で確認できる時期での発見された場合は、ステージI bやII期である場合が多く、早期診断方法として腫瘍がつくる物質の採血でのチェックが期待されています。オーストラリアで見つけられたメソテリンと関連物質が、注目を集めています。上皮型の中皮腫で高値となり、手術や抗ガン剤で腫瘍が切除もしくは減少すると測定値も低下することがわかっています。中皮腫の発症前に高値となった報告があったことから早期診断に期待が高まっていますが、高値例がすべて中皮腫ではなかったり、高値である際にどの程度検査で見つけられるかという問題もあり、診断精度に今後の工夫が必要といえます。将来的には中皮腫の早期診断の重要な手段で現在積極的な研究段階です。現在はリスクのある人すべてに勧める段階ではない検査と思われます。

 亀井敏明編著.アスベストと中皮腫.東京:篠原出版新社;2007:1-299



392

Q: 石綿肺ガンの認定の考え方が、欧米では違うと聞きました。説明してください。

A: 石綿肺ガンは、現在では石綿濃度・吸入年数に比例して増加すると考えられています。石綿関連疾患の標準的診断指針であるヘルシンキ・クライテリアは、25繊維・年数の曝露で、石綿肺ガンは2倍になるとしています。25繊維・年数に達した職業性石綿(アスベスト)曝露がある人は認定するという考え方が主流となり、ドイツ、その他の欧米諸国にひろがってきています。日本でも2006(平成18)年2月の労災の中皮腫・肺ガンの認定基準の変更で、こうした考え方が始まってはいるのですが、過去の胸膜肥厚斑や石綿小体数を重視する考え方も残っており、胸膜肥厚斑や石綿小体が少なくとも石綿曝露が一定あれば労災認定するという部分の考えが十分広まっていないといえます。



393

Q: 肺の中に残っている、石綿小体と石綿繊維について、教えてください。

A: 石綿繊維は肺の中に吸入されますが、動物実験ではその99%程度は数ヶ月の間に排出され、肺内に1%程度残存するといわれています。肺内に残存した石綿繊維は、肺内に長く残存する繊維と、リンパの流れをへて肺門から全身の臓器に分布していく繊維に分かれます。肺内に残存している石綿繊維のごく一部に対して肺の白血球が働きかけてタンパク質と鉄が沈着したのが、典型的には鉄アレイ型をした石綿小体です。石綿(アスベスト)繊維は電子顕微鏡で観察し、石綿小体は光学顕微鏡で観察しますが、通常石綿小体の数百倍から数千倍は石綿繊維が肺内にあるとされています。



G)-2 中皮腫

394

Q: 私仕事で石綿を扱った事ありませんし、夫も父もそういう仕事ではありませんが、中皮腫といわれました。唯一あるとしたら、石綿製造工場から数百 m の学校に 10 数年通学していました。環境中皮腫なのでしょうか？

A: その可能性は、高いように思います。石綿関連疾患に詳しいNPOと相談しながら、原因の確定、医療機関からの資料のかり出しを行って行きましょう。



395

Q: 私の知り合いの女性は、中皮腫で 10 年前になくなりました。解剖をしましたが、造船所勤務の夫の作業服の洗濯による家族曝露の中皮腫と医師から説明がありました。この間の報道で昔の事を思い出しました。

A: 旅立ちに謹んで哀悼の意を表します。1960 年の南アフリカの中皮腫の論文は、1970 年代以降中皮腫の方を担当した臨床医師の多くが読みながら、学会で報告した論文で、職業だけでなく家族曝露と環境曝露が記載されていました。日本の医師でも家族曝露や環境曝露に注意していた人もいました。1950 年代や 60 年代に日本の対策がすすんでいれば、防げたと思うと残念です。



396

Q: 私は 20 代から、建築ゼネコンの現場監督を 30 年してきました。仕事をしながら大学に通い、真面目に仕事をしてきました。私の会社は質の良い仕事をする事で知る人は知る会社で、わかる方にはわかる建築が色々あります。しかしそのビルの建築で、吹き付け石綿もありましたし、石綿建材の掃除は監督の私が率先して毎日してきました。中皮腫と言われ最初にはよくわかりませんでしたが、最近仕事でなった事がよくわかります。私の会社では今の所中皮腫は私だけです、特別なのでしょうか？

A: 私の知る限りでは、有名な大手ゼネコンはほぼすべてで、中皮腫の方がいらっしゃるように思います。あなただけでは、ありません。石綿を吸入された方では、良性疾患の(ごく初期の)石綿肺や胸膜肥厚斑の方は、年齢や曝露期間で異なりますが、10~30%に達しますが、石綿肺ガンや中皮腫は死亡者の現在1%以下の疾患ではないかと思います。元々稀な疾患ですので、だれでもなるというものとは違います。



厚生労働省石綿に関する健康管理等専門家会議マニュアル作成部会編、石綿ばく露歴把握のための手引—石綿ばく露歴調査票を使用するに当たって—;2006:1-153
http://www.jaish.gr.jp/information/mhlw/sekimen/h18_tebiki.html



397

Q: 夫が腹膜中皮腫になり、死亡しました。解剖して病理検査中です。アスベストとの関係はなかったようですが。

A: 腹膜中皮腫の診断が確かであれば、どこかでお気づきにならない石綿曝露があったか可能性が高いと思います。建物、環境、気づかない職業等です。お調べになりたい方は、調査員と面談して調べられたらいかがでしょうか？



398

Q: 母が胸膜中皮腫になりましたが、仕事は若いときに10年事務職で、その後事務職の父と結婚し、数回転動しました。主婦として30年過ごしており、環境による中皮腫と思います。今後どうすれば良いのでしょうか？

A: これまで、これからも治療費が必要となりますので、すぐに環境再生保全機構にご連絡し救済給付を申請してください。この給付は、原因は不明でも中皮腫であることが間違いないければ認定されます。申請受理後の治療費と毎月10万円程度の給付がなされます。ただし、ご本人がご存命のときにしか申請できませんのでご注意ください。お母様が原因を追究したいとご希望であればご相談下さい。事務職の現場で何かアスベストに関係していたビル等があるかもしれません。



399

Q: 60才の私は胸膜中皮腫になりました。10代で数年石綿工場の10m近くで過ごし、結婚後10年住んだ鉄骨建物に吹き付け石綿がありました。今後どうすれば良いのでしょうか？

A: 環境再生保全機構の救済給付は申請されていますか？ まだでしたら早急に申し込んでください。治療費と毎月の給付金が出ます。ご病気の原因は石綿工場のそばに住んでいたことが有力です。しかし、労災は職場での曝露が無い場合は認定されません。これまで全くお仕事はされませんでしたか？ お心当たりございましたら、ぜひご相談下さい。



400

Q: 父が胸膜中皮腫になりました。①原因が思い当たらないのですが、どう調べたら良いのでしょうか？ ②父の中皮腫は上皮型と言われましたが、中皮腫にはいくつかのタイプがあるのでしょうか？

A: ①お父様ご自身が覚えていなくても、当時の職場の方が覚えている場合があります。また、実際にお父様が石綿に触れていなくても、周囲で石綿を扱う作業が行われていたなら、その空気を吸ってしまうことになります。会社の仲間の方をお探しになりお話を伺う事が最初の一步です。②中皮腫には上皮型、肉腫型、二相型の三つのタイプがあります。肉腫型は進行が早く上皮型はやや緩やかで二相型は上皮と肉腫の二相をもつ中間型と考えられています。



401

Q: 数年前、単発性線維性腫瘍(良性中皮腫)と言われました。先生も「直接石綿の仕事もしてないのなら、非常に珍しい事だよ」って言われましたが、幸い良性で手術はしていません。どういう病気なのでしょう？

A: 線維性の腫瘍で CD34(+)がマーカーです。良性から悪性まであります。これまでは、localized fibrous mesothelioma と呼ばれていました。石綿との関係はないと考えられています。

 亀井敏明編著.アスベストと中皮腫.東京:権原出版社;2007:1-299



402

Q: 昨今アスベスト被害問題が注目されていますが、実は私の妻も中皮腫という病名で死亡いたしました。当時としてはこの病気に関して今ほど解明されていなかったため、医師からの要望で解剖を致しました。当時、医師から妻の病原(アスベスト)となる環境を尋ねられましたので鉄骨 3F に家を建て替えたことを説明しました。果たしてこれが原因となるかは定かではありませんが、岩綿 (ロックウール)の露出した部分は業者に頼み直ちに剥離して貰いました。

A: 御伴侶様のご冥福を心より追悼いたします。解剖をされたとの事ですが新法施行もあり、現在からでも中皮腫の原因等の調査の相談に応じさせて頂いております。よろしければ、病院名や病名(胸膜か腹膜か)、奥様の過ごされた住所(尼崎以外でも原因はありますので?)、奥様のお仕事、奥様のお父さんのお仕事(家族曝露)等をお教え頂けると、適切なアドバイスが可能です。



403

Q: 知り合いが中皮腫で亡くなりました。アスベストのことなど知らず今回の報道で初めて知りました。消防士として定年まで現場で働き、消防士の防火服にもアスベストが使われていたと聞きました。手術不可能で痛みを訴えながら亡くなりました。急激に生きる意欲をなくしたのは、ベッドに両手、両足を縛り付けられた 2 日後です。主治医とは縛り付けないと言う約束であったにもかかわらずでした。高齢で発症される方も多いと思います。義父のような落胆して死に臨む方が減少することを願っています。

A: 貴重な御体験をお教え頂き、ありがとうございました。痛みや症状を和らげる緩和ケアを十分している方は、皆さん安らかに旅立たれていけます。過去に消防士をされた方の悪性中皮腫は、業務上疾病となる可能性が大了。ご相談頂ければ、手続き等に関して

お教えいたします。ご連絡下さい。

 厚生労働省石綿に関する健康管理等専門家会議マニュアル作成部会編、石綿ばく露歴把握のための手引ー石綿ばく露歴調査票を使用するに当たってー;2006:1-153
http://www.jaish.gr.jp/information/mhlw/sekimen/h18_rebiki.html



404

Q: 父は悪性胸膜中皮腫であつという間に亡くなってしまいました。気持ちも若い私にとって最愛の父で、明るく優しくユーモラスで人の悪口など一言も言わない人でした。40年修理工として働いていました。病院で手術で父の胸部から取り出された腫瘍は私の目に焼きついて離れません。とっても元気だったのに！ 孫と温泉に行く母の喜ぶ顔を見るためにそんな病気になっているとも知らず、苦しい息で車を走らせた父。多趣味で母に優しく父。わずかな命と悟り、亡くなる2週間前に自宅に数時間だけ帰宅を許され、庭を眺めたい、みんなでご飯を食べようと言った父、極度の苦痛に麻酔で眠らされる前の晩まで、看護師さんに申し訳ないからと自分でトイレに行こうと頑張り呼吸困難になってしまった父、父はとってもタフで、こんなに早く死ぬような人じゃないんです！ アスベストと会社が本当に本当に憎いです。今更かもしれませんが、アスベストの恐怖を知っている私にできること、それは今後この過ちを犯さないよう、事実を明らかにすることだと思っています。

A: お父様への愛と、失われた悔しさのあふれる相談を伺い、大変感じるものがございました。御相談の限りでは恐らく可能な労災の申請をしていない様ですが？



405

Q: 私の親類の者が、悪性腹膜中皮腫と診断されました。年齢は70代。治療の方法がないということで、今家にいます。食欲がなく、ジュースなどを飲むとはきだします。体調が悪く中皮腫と分かるまで約1ヶ月かかりました。その間体重が20キログラム減少して、骨と皮になりました。腹膜中皮腫の治療を行っているところをご存知でしたら是非教えてください。

A: 親類の方のご病気で、さぞご苦労されている事と思います。なかなか腹膜中皮腫の治療は困難ですが、A地区ではB病院内科のC先生が、お詳しいお一人と思います。



406

Q: 奥様は幼少の頃から尼崎在住の方で、A 病院で「悪性胸膜中皮腫」と診断されたそうです。関連のないお仕事をされていたそうで、当時「現場で働く工員が罹る病気だから珍しい」と医師に言われたそうです。手術もままならない中亡くなられたそうですが、今になって尼崎の工場との関連が発表され心配されています。届出をしたほうが良いのか？ 必要な書類等は何でしょうか？

A: 尼崎の関連ですので、この間多くの中皮腫の方の援助にあたられた、アスベストに詳しい機関をご紹介します。



407

Q: ①腹膜中皮腫の治療について、教えてください②腹腔にリザーバーの留置とのことですが、お教え頂けるとありがたいです。

A: 腹膜中皮腫の治療は様々な方法が検討されておりますが、海外でも有効な結果がでておりません。アリムタの認可は諸外国でも悪性胸膜中皮腫に限定され、諸外国で認可されていませんので日本での悪性腹膜中皮腫の治療の可能性はまずない状態です。胸膜中皮腫については、恐らく来年アリムタは保険適用となり、どの病院でも使用可能となるでしょう。昨年のイタリアでの国際会議の報告から考えても、この2年ほどで悪性腹膜中皮腫の新薬がでる可能性は、世界的にはほぼ難しいのが実情です。腫瘍の専門家にかかれば良くなる疾患ではない、という事でもあります。(2005年の回答) 現在腫瘍内科等の抗ガン剤の治療の専門の医師が必要というよりは、緩和ケアを含めて何でも親身になって相談のできる消化器内科(外科)もしくは緩和ケア科の医師が必要かと思っております。腹水のコントロールに最近リザーバの使用例が増えていますが必要時に穿刺すれば同様と思います。



408

Q: 船の機関士(機関員)をしていた知人が40代で胸膜悪性中皮腫より他界しました。故人は若い時に機関室の壁のアスベストをマスクもせず剥いたり素手で運んだりしていた

事をかなり気にしていました。アスベストに暴露された期間が15年ほどになりますが、そのような短い期間でもアスベスト原因で中皮腫を発症した事例はありますか？

A: 船の機関士は、昨年当センターにご相談の方が業務上で認定されて以降、5名の方が悪性中皮腫で認定されました。石綿の曝露期間は1年で業務上と認定されています。3年前なら今から手続きをされれば、ご遺族に様々な補償が受けられます。



409

Q: 私の父が心臓のガンと診断され死亡しました。「俺が死んだら解剖をして塵肺でないか調べて欲しい」と遺言を残し、残された家族は遺言通り解剖をしましたが塵肺ではないとの医師の返事でした。当時を思い起こすと父の症状が中皮種に似ており連絡させていただきました。父が他界してからたちまちが調べる事が出来るでしょうか教えてください。

A: 心膜中皮腫の疑いもあります。解剖をされているとの事ですので、今後の検討は可能です。死亡年月日、お手元に残存する死亡診断書等の全資料をまず複写してお送りくださり、今後のご相談に応じます。



410

Q: 「悪性胸膜中皮腫」で他界した父は医者で色々な文献を読み当時症例として少なく治療法も確立していない事から、患者の立場と同時に医者としても苦しみ悩んでおりました。「原因はアスベストだ」と父は申しておりましたが、いつアスベストに囲まれる環境に自分が身を置いていたのか、本人はわからず「何でこんなことになるんだ？」と申しておりました。父の場合、アスベストが原因ではないかもしれません。しかし、知らないうちに環境被害をうけていたのかもしれません。そこで、アスベストが周辺住民に影響を与えていたと思われるエリアとはどこなのでしょう。お教え頂けないでしょうか。

A: 悪性中皮腫の曝露は様々に知られています。①外科医だったでしょうか？手術時に使用する手袋のタルクのアスベスト曝露が知られています。②生まれてから過ごされた様々な建物はわかりますか？大学等での曝露が疑われる方もいます。③お若い時に海軍等の関連の仕事をした事はないでしょうか？この時期の曝露がある方がいます。④日本は少量

ですが石綿や蛇紋岩がある地域が多いのです。北海道、東北、秩父、愛知、四国、中国、九州等にありますが。石綿工場の情報は厚生労働省事業所資料をご参考ください。以上は簡単な例ですが、居住歴、家族歴、職業歴をすべてを伺って、吸入した場所を特定して参ります。また切除した肺の石綿繊維等の分析も可能な場合が多いのです。ご遺族からの相談も増えております。簡単な履歴をお送りくだされば、次のステップのアドバイスが可能かと思えます。

 厚生労働省事業所公開 第1回HP<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/07/h0729-2.htm>
厚生労働省事業所公開第2回HP<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/08/h0826-3.html>



411

Q: A病院の医師から病理検体を依頼されましたので、2,3お尋ねしたいことがあり、お便りさせていただきました。採取している検体は胸水細胞診と胸腔鏡下で採取した末梢肺・壁側胸膜の組織です。胸水細胞診はご返却を前提とした貸し出しでよろしいでしょうか。組織はいずれも診断に至らない量であったのですが、プレパラートのみでよろしいのでしょうか。ブロックでアスベスト検出を試みられるということであれば、保管ブロックがなくなるということでしょうか。

A: 胸水細胞診は細胞診報告書のみで結構です。胸腔鏡下生検の病理検査報告書をまず見させていただきますが、壁側胸膜は必要に応じて様々な免疫染色を行う場合と全く行わないで返却する場合があります。末梢肺については既に診断用に作成されているプレパラート以外の肺を完全に使用しません(乾燥肺で0.1g以上が望ましい)十分な石綿繊維等の同定は難しいのが実情です。検査の必要に応じてですが、末梢肺のブロックは当方で完全に使用する事になる場合も多いと思っております。よろしく御願い致します。



412

Q: 妻がA医大で腹膜中皮腫と診断され腫瘍は手術で摘出されました。腹膜に中皮腫が散らばっているようです。この病気は完全治癒するのでしょうか。又、どの程度の期間が必要でしょうか。

A: お連れ合いの突然の病気で、ご苦労されている事と思います。女性の腹膜中皮腫は、色々な他の病気との区別が困難とされ、アスベストの関連がある場合と薄い場合があります。主治医の先生から手術後の病理検査の説明はあったでしょうか？ 病理検査報告書の